# かぐらおか

（題字は初代学長　山田守英氏）

第 55 号

昭和63年 3 月25日

編集　旭川医科大学
　　厚生補導委員会
発行　旭川医科大学教務部学生課

（写真撮影　施設課　伊藤　茂）

樹　氷

第十期生を送るにあたって… 下田　品久 …… 2
卒業生に贈る言葉 …… 米増　祐吉 …… 3
卒業にあたって …… 櫻井　行一 …… 4
卒業にあたって
　－6年間を振り返る－…… 中村　俊子 …… 4
卒業にあたって　…… 今村　卓司 …… 5
昭和62年度講演会一覧 …… 6
一年のあゆみ …… 7
スキー教室 …… 9
学生証の査証及び更新について …… 9
研究室紹介（内科学第一講座）…… 藤兼　俊明 …… 9
学生団体一覧 …… 10
サークル紹介 …… 11
学生教育研究災害傷害保険について …… 18
窓　外 …… 宮本　健司 …… 18

# 第十期生を送るにあたって

学長　下　田　晶　久

第十期生の皆さん卒業おめでとう！
昭和48年に開学した旭川医科大学も遂にこのたび2桁台の卒業式を取り行う運びとなりました。皆さんは入学と同時に医学生としての長い道程を歩み始め、学年が進むにつれて次第に勉学に追われる厳しい日々を送って来られた事と思いますが、見事に乗り切って喜びの日を迎えられた努力に敬意を表し、心からお祝い申し上げます。

卒業とは文字通り〝定められた水準の学業を修め卒えた〟と言う意味ですが、証書には同時に「医学士と称することを認める」と記されています。つまり皆さんは卒業証書を手にしたその日から新しく医学士として出発することに成るのです。その意味で、希望に胸を膨らませた新医学士諸君の門出に餞の言葉を贈りたいと思います。

6年間の学習を通じて皆さんは、医学の知識が年年歳歳増加し或は更新されて今日に至ったことを十分理解し得た事と思います。これからも絶え間なく続くこの様な医学知識の更新を、卒業後は自分の力で消化して行かなければなりません。しかも現代は、まだ知識体系を成すには至っていない雑多な情報が、数限りなく周りから押し寄せて来ます。これらを取捨して誤り無く自らの医学知識を構築し続ける能力と資質を認定された人、それが医学士なのであります。

医学士はまた医師と成る条件を具えた人でもあります。医師は病気を制御するに留まらず、病める〝人〟を癒やす事を使命としています。従って医師には、人間に対する愛と深い洞察が要求されます。この使命を全うするには、知識や技能を磨くだけではなく自らの人格を高めなければなりません。この道は遠く、皆さんの一人一人がその個性に応じて日夜謙虚な反省を積み重ねて行く他に方法は無いのであります。この点に関しては、卒業証書も可能性を認定したに過ぎないと言わざるを得ません。是非この可能性を各人の努力で発展させ、現実のものとして戴かねばなりません。

今、医学士となってこの旭川医科大学を巣立って行く皆さんには、以上の2つの事柄を深く心に止めて、入学の際抱いたあの大きな志を、生涯かけて立派に達成して下さるよう切に願うものであります。

翻って、近い将来大部分の卒業生の皆さんが参加する我が国の医療に目を転ずると、今から15年前の本学開学当時には、人口当りの医師数が日本で最も少ない地域とされたこの北海道でさえ、今や都市部では医師過剰の声が聞こえ始めています。その反面、交通網の幹線から外れた地域では、かえって住民の間に医療過疎の思いが強まっているのであります。分配の不均衡感がこれ程までに顕在化した時代はかつて無かったのではないでしょうか。国民に対する医療の適正な分配はどのようにして達成されるのでしょう。経済原理に従った止むを得ない現象と言って済まされる問題でないことは明らかであります。何故なら医療はあくまで個人を対象とした行為であり、国民の一人一人は等しくその恩恵に浴す権利を持つのであって、日本の医学は先ず国民の健康と福祉に責任を負うものであると考えられるからであります。今や医療の配分は、医師個人の献身と奉仕のみに期待してその均衡を待つ段階ではなく、種々の分野の人々の英智を結集して、積極的に解決の道を求めなければならない大きな社会問題であります。その場合、医療の専門性から考えて、やはり医師がその主導的役割を果たさなければならない事は明らかであります。

他方、これからの国際社会の中で日本が果たさなければならない役割の一つに、医学の分野における貢献が挙げられますが、これには、現在すでにかなりの評価を得ている研究活動の他に、当然国際的な医療活動も含まれます。

以上、国の内外における医学をめぐる時代環境に思いを致すとき、これからの時代を担う若々しい皆さんには、国を癒やす国手としての自負と、広く人類の健康・福祉を考える視野とを養い、将来に向けて大いに活躍して戴きたいと心から念願するものであります。

# 卒業生に贈る言葉

米　増　祐　吉

「卒業おめでとう。」皆さんは最も短かい人でも小学校入学以来18年という長い間、今までの記憶にある人生の大部分を学校という環境で過ごし、ここにめでたく「学業成りて社会に出る」訳である。皆さんの勉学を支えられたご家族の方々にとっては恐らく気の遠くなるような長さであったに違いない。夢中で過ごしてきたと思われる皆さんにとっても、国家試験というもう一つの関門が待ちうけているとはいえ、人生の大きい区切りを無事迎えたことに大いなる喜びを感じているに違いない。心からお祝いを申しあげる。

皆さんの学業の最終段階の教育に携わった者として、医学の専門教育を行った者として、皆さんのうけた教育、それがどのように修得され、今後どのように活用できるか、医師作りの責任者の１人として、いささかの感想を述べ、皆さんの前途への道標としたい。

現在の学校教育については、すでに言いふるされていることであるが、ほとんど入学試験を乗り越えるための知識の集積でしかないのではないか。それも多くの試験が多枝選択式で行われるために、それに適した反応が最も重要視されてきている。やゝ短絡的に言えば、皆さんはそのような受験技術の expert であるといえよう。少くともそのような思考形態に大きく影響されている。医学教育も残念ながらほとんどその延長にある状態であり、さらに国家試験でもその技術は最高に発揮されるであろう。しかし、そのような技術が医師としての仕事にどのようにかかわってくるか、そのような思考傾向がどのように影響するか、医師としての旅立ちを前にしてよく考えてみなければならない。

皆さんの今まで修得してきた医学は正にある種の「学」であり、医療ではない。今のままではいわば死んだ知識の集積でしかない。実体の感覚の伴わない抽象的知識、それも主として病気の知識でしかない。一応臨床実習という形で約10か月実際の臨床にも触れている筈であるが、これもほとんど知識の集積の延長でしかないようである。

現在の状態はコンピューターに病気に関するデーターベースを入れた段階でしかない。なかには真空管式ではないかと疑わしくなる人もあるようであるが、反応の速い人でも、キーワードが少し違うと、屡々作動しなくなるようである。出てくるデーターも病気に関する決りきった細かい知識の羅列という形である。

脳神経外科の教育では『考えていないということに気付く』よう仕向ける努力をしているつもりであるが、卒業試験の結果からはさして成果があがっているようにみえない。大部分の人にとって医師になるということは患者を診るということになる筈であるが、そのような心構えで医学を学び、臨床実習をやってきたか疑わしくなる反応が少なくない。限定された設問にはよく答えるが、可能性を並べたてるという形で、その意味づけ、重みづけ、更には目の前の患者の状態をふまえてどう考えるかの判断までにはほとんど至らない。この状態は、コンピューターにデーターを入れるときと同様、何故ということを考えることなく、digital に⊕⊖という形でカードがそのまま脳に集積されている結果ではないかと思われる。

なぜか、なぜかと質問を重ねると極めて日常的な常識でも考え及びそうなことも考えていないのに気付く。要するに多くの学生は医学を記憶の学問として捉え、考えることをむしろ拒否してきたのではないかとさえ思えてくる。皆さんの修得してきた知識は膨大なものであるが、重要なのはそれを患者を前にしてどのように引き出し、選択し、さらには次の段階への判断、決断に結びつけられるかである。多枝選択式の問題に答えるのとは全く異る状況で、いわゆる問題解決型の思考が要求される。

さらに病気のみをみるのでなく、病む人をみるということは、いわば人と人との communication である。病む人の人格と医師の人格の触れ合いということであり、これは教えられるものではない。それぞれの自覚のもとに人間としての巾を拡げる努力が要求されるであろう。できれば卒業を機に少しの間でも医学を離れて自分をみつめる時間を作ることも必要ではないか。自分という人間を捉えられない人に、他人を人として捉えることができるとは思えないからである。いうなれば医療という仕事は人間学に根ざしたものでなければならない。

現実の医療を取巻く情勢はいわば激動期の様相を呈している。医療制度、医療経済、高度医療、高齢化の問題、家庭医と専門医、脳死と臓器移植、医の倫理などなど医師の professional freedamは脅かされ、経済的にも危機的状態になりつつある。医師がある意味で先送りしてきたことのつけが廻ってきているともいえよう。もはや１人１人医師が無関心ではいられない事態がきている。これからの医療の道に手本はない。医師が新しく展開していかなければならない状態にある。

このような時代の医師として生き残るには、「医学」の勉強で固くなった脳を軟らかくし、いつも何故と問いかけ、鵜呑みにせず、自己の行動を検証し反省し、患者におもねるのではなく真に患者のためを考え、又目先の医療のみでなく、日本のさらには世界の医療を考え行動していかねばならないであろう。そのような医師を目指して努力されることを願ってやまない。

（第６学年学年担当　脳神経外科学講座　教授）

## 卒業にあたって

櫻井行一

この度、6年間という、長い大学生活に終止符を打ち、無事卒業できたことに、深い感慨を抱きつつ、この筆を執らせてもらっています。

昭和57年4月に入学して以来、とても多くのことを学び、かつとても多くの苦しみや喜び・楽しみを経験することができました。学業に関して言えば、幾多の試験を乗り越え、数知れぬレポートを提出してきたことが思い出されます。レポートの作成などは、非常に苦手な部門であった私は、先輩のレポートを適当に並べかえてなんとか間に合わせたこともありました。又、試験週が近づくたびに私は資料集めに精を出し、コピーの山と闘ったものでした。おかげ様でコピーを取ることだけはプロフェッショナルとなり、町のコピー屋（ツ○ハとか）ではお馴染みクンになってしまいました。コピーの値段も私が入学した頃は安くても一枚30円であったのが、今では10円を下回るところもでてきています。試験の前にはこのコピー地獄で、勉強時間をコピーしている時間が上まわってしまうことも何度か経験しました。ちなみに私のコピー最長時間は8時間で、千枚以上のコピーをしたことがあります。こんなことは何の自慢にもなりませんが、今の時代の大学生とコピーとは切っても切れない関係があるのです。コピーの話ばかりしていると自分でノートをとっていないのかと思われそうなのでこの辺にしておきます。結局、大学生活においての喜び苦しみとは試験を中心としたサイクルと同じかもしれないということを言いたかったのですが……。

私が大学に入って19才→24才と年をとり、変化したのも当然ではありますが、旭川医大の周辺も大変変わりました。数年前には（大学祭実行委員会などで学祭徹夜組となった人は御存知でしょうが）大学の裏の野原からは鳥の朝のさえずりが美しく聞こえていました。ところが、高校・道路設置などにより近年は今1つ鳥のさえずりも聞くことができません。大学周辺の街並も大きく変わり、以前は数えるほどしかなかった喫茶店・食堂も年々増え、その他にも本屋・ガソリンスタンドなどなど、6年前に入学試験の時に〝なんて山の中に大学があるのだろう〟と思ったのもうそのように感じる今日この頃です。

大学に入って〝コンパ〟なるものを数多く経験しました。部・学祭・打ち上げ・旗上げ・学年・追などコンパには多数の修飾語がありますが、どのコンパでも共通しているのはある程度の人数が必要だということです。何度となく幹事をしましたが、人がいないことほど困ることはありませんでした（ちなみに〝合〟という修飾語のつくものもあります）。コンパという言葉を広辞苑で調べると―（コンパニーの略）学生などが、費用を出し合って催す懇親会―とありますが、どちらかと言えば実際には一種のストレス解消の場となっていることの方が多かったようです。酒を飲むこともよいですが、大学生のみなさんもどうか体には気を付けて下さい。

非常にまとまりのない文章でしたが、今までお世話になった諸先生、友人、先輩・後輩、両親その他すべての関係者にお礼を言うと共に今後もよろしく御指導していただくよう希望しつつ筆を置きたいと思います。

## 卒業にあたって
### ―6年間を振り返る―

中村俊子

とうとうこの時期がやってきた。待ちに待ってたはずなのに、しかし、なぜか手離しでは喜べない、そんな心境である。毎年毎年、5年間、この時期の〝かぐらおか〟を読んでは早く進級して、早く卒業して、早く立派な良いお医者さんになりたいなあと思っていた。6年生の文章は、すばらしく、感動を覚えた。その私が今年は書く立場になっている。不思議、不思議。では、6年間を振り返ってみよう。

**1．こころざし**

私が医者になりたかった理由。幼い頃、風邪でかかった医院がとても混んでいて、随分待たされた。まわりには泣いている赤ちゃんもいる。母になぜこんなに混んでいるのと尋ねたら、医者が足りないからと言った（私の実家は稚内です）。足りないのなら、私が医者になると幼いながらも思った。それが現実になろうとしているなんて夢のようだ。今でも、母が私の小さい頃の〝こころざし〟を感慨深げに話すのを聞いて照れる反面、医者になろうとしている私の心は奥深くまで幸せに浸る。

**2．クラブ活動**

クラブは卓球部で、1年生から6年生まで続けた。卓球部に入って、とても良かった。初心者で始めた卓球も東医体Best16、北医体ダブルス優勝と自分でも満足できる成績を残せた。これも6年間という長い年月だからできたと思う。他には人間の縦のつながりを味わえたことである。入学時には5・6年生がとても大人で、自分がちっぽけに感じた。又、自分もいつかは同じようになりたいと思ったものである。上級生になると、下級生ができる。これも楽しい。とても若返る。新入生は新鮮で

昔の自分を思い出させてくれたり、pure な気持ちで一杯にしてくれる。医学部だから、クラブ活動に関して人それぞれの考えがあると思うが、私は6年間続けてほしいと思う。長い6年間を振り返って、結局何も残ってないのは寂しい。現に残らない人も多い。

**3．女　子**

入学前からわかっていたけれど、やはり女子は少ない。下級生の頃は別に女子であること、人数の少なさに不便は感じなかった。上級生になり、実習が始まり、就職、結婚などを考えると、「男になりたい」「そうだよね」という会話も生まれる。医大に入ってからは、私のお喋べりも少し減ったような気がする。

**4．試　験**

大変な時もありました。こんなにも試験、進級が厳しいなんて思わなかった。私達10期生は、120人が入学したが、最後まで留年せずにきた人は80人にも達しません。知ってる人がもし医大を受験しようものならば、ちょっと待って、なかなかキツイよと言いたいぐらい。しかし、人間はやろうと思えばできるもんですねえ。下級生の頃は、4・5年生の試験は大変そうと思ったし、上級生になると、6年生の試験は長いし、自分にできるかなと心配してた。結局、それが出来た。今では懐しくさえも思う。

**5．6年生**

6年生になると、あと1年、もう少しで卒業。今までの5年間を水の泡にしちゃいけない、高校時代の友達は結婚したり、バリバリ働いていたりで pressure もありました。しかし、焦ってもはじまりません。残りの学生生活を有意義に過さないと損です。

紙面も終わりに近づいてきました。本当に、本当に、従然なるままに、筆を走らせました。思い起こすと、雪多い旭川に来て6年になろうとしている。あの頃の自分と今の自分……。素直に書かせてもらえば、〝こんなはずじゃなかった〟という言葉が頭に浮かんできた。何故だろう。卒業と同時に旅立ち。卒業するのは嬉しいが、新しい社会での期待と不安が混ざり合って自分にふりかかる。すると、まだまだ学生でいたい気分。きちんと診療できるかななど、実践面での不安もある。しかし、6年間、やり通した自信を心の糧に乗り越えようと思い、そして、良い医者になりたいと強く思っている。

卒業生のみなさんは各人、様々な方面で活躍するだろう。自分の夢に向かって、新しい第一歩を歩んで、人生集大成を築いてほしい。

ここまで育ててくださった諸先生方、ありがとうございました。お父さん、お母さん、ありがとうございました。感謝の気持ちで一杯です。

# 卒業にあたって

今村卓司

6年前の4月2日、YS11機のタラップを降りる時、旭川の風は大阪出身の私に季節を春ではなく冬と教えてくれた。あれから6年、人間の適応力とは恐ろしいものである。なんと旭川の冬にも慣れ、今では−15℃の寒さから春の近づきを感じることができるようになった。

長かったようで短く、短いようで長い6年間であった。「想い出が走馬燈のように…」とはいかないが、各学年で記憶に残っていることを徒然ならないままに書こう。

**1　年**

後期の化学試験で再試となる。ノート持ち込み可の科目であったので信じられなかった。数日後解答用紙1枚で提出するところを2枚で提出したためと判る（単に出来が悪かったかもしれないが）。試験前、U先生の「2枚目からは1万円だぞ！」という素晴らしい冗句を聞きもらしてしまったためである。せめて試験の時ぐらいは先生のお話しをしっかりと聞くべきである。

**2　年**

化学 etc 実習が始まる。初めて着る白衣に「俺も偉くなったものだ。」と思う。さて実験のほうであるが、早く帰りたいために予想される実験結果を得ようと努力する。何か間違っているようだが、「まっいいか！」としよう。後期、基礎の試験が始まる。記憶しなければならない量の膨大さに呆れ、試験勉強期間の長さに驚く。もっとも最後は秘技「一夜漬け」であった。

**3　年**

解剖実習始まる（注、骨学実習が2年後期にあるため正確にいえばこの表現は不適切である）。白い衣に被われた御献体が妙に明るい実習室に横たわっているのを思いだす。貴重な経験をさせて下さった御献体に感謝します。夏休み直前の生化学実習の頃、夜中や明け方に層雲峡や留萌等へドライブに行く。最も若さあふれる頃だったか。

**4　年**

前期、薬理の実習を除けば講義ばかり（注、病理、衛生、公衆衛生の実習もありました。各先生方申し訳ありません）。専門が始まるまでの「命の洗濯」の期間である。この期間は有意義に遊びましょう。6月から内科等の専門科目が始まる。初めの頃は先生のおっしゃる意味もよく理解できず、ただノートに書きこむ「人間ワープロ」と化す。後期試験、2週間16科目という試験期間と科目、さらに初めての専門科目ということから、試験前によく

胃や腸の具合がおかしくなり「ＩＢＳ（過敏性腸症候群）の卓ちゃん」と呼ばれる。なんとか無事に突破。試験後１週間ある講義は「燃えつき症候群」となる。先生がた!!この１週間の講義はやめて、さっさと春休みにしましょう。教えるだけ無駄ですから…。

**５　年**（臨床実習前）

法医の実習を除けば、ほとんど講義。試験ぐらいしか印象にない時。今回は３週間18科目。初めの２日で早だらけ、後は惰性でのりきる。よくパスしたものと思う。

**臨床実習**（５・６年）

かつてソクラテスの説かれた「無知の知」を体得する絶好のチャンス。ただ「無知の知」を認識するだけで終わらせることが多かったですが、私の場合は。５年に続き、後輩たちにうまくのせられ、東医体（水泳）に参加する。合宿中に左肩を寝違えて肩がうまく回らなくなる。大会で可愛い１年生と「100mフリーで１分15秒を切れば頬にキス。」と約束するも肩の不調で達成できず。当然、御褒美もなし！　実に残念である。行事に備えて体調は万全に整えておくべきだと骨身に沁みる出来事だった。

**卒業試験**

２ケ月以上続き、しかも17科目という最大の長丁場である。中２日、中３日で試験が行われるので試験後１・２日は安心し、結局秘技「一夜漬け」の登場となる。いつまでたっても進歩のない自分に呆れてしまう。しかし、この時期に大切なのは勉強でなく健康である。なんてったって「体が資本」である。

まぁこんなものでしょうか。折しも冬季オリンピックでスケートの黒岩　彰 選手が1000mを滑べり終えて「やるべき事はやった。悔いはありません。」とインタビューに答えているのをみて、言ってくれるじゃないのと思う。などと冗談はさておき、私の６年間とは大変な違いである。やはり６年間の学生生活で、これだけ成し遂げたと自信をもっていえるものがひとつでいいから欲しかったと、今さらながら思ってしまう。

最後に、お世話になった先生方、いろいろと力になってくれた友人達、そして６年間旭川で暮らすという我儘を許してくれた両親に深く感謝したい。ありがとう。

## 昭和62年度講演会一覧

昭和62年度に本学で開催された講演会は次のとおりです。

| 開催日 | 演題 | 演者 | 担当講座等 |
|---|---|---|---|
| 7月31日（金） | 21世紀の医学 | 千葉大学医学部<br>教授　本間三郎 | 耳鼻咽喉科学 |
| 8月28日（金） | トランスジェニックマウスにおける外来遺伝子の発現とその応用 | 熊本大学医学部<br>教授　山村研一 | 病理学第二 |
| 9月2日（水） | ウィルス感染症の垂直感染とその防止について | 北海道大学医学部<br>教授　松本脩三 | 小児科学 |
| 10月7日（水） | 蘇生面における人工肺の役割 | 熊本大学医学部<br>教授　森岡亨 | 麻酔学 |
| 10月16日（金） | 免疫病の病理の最近の話題 | 東北大学医学部<br>教授　京極方久 | 病理学第二 |
| 10月19日（月） | 神経連絡の形成について | 山形大学医学部<br>教授　白井敏雄 | 実験実習機器センター |
| 10月29日（木） | 平滑筋の収縮 | 筑波大学基礎医学系<br>教授　真崎知生 | 薬理学 |
| 11月4日（水） | 神経科学の展望 | 順天堂大学医学部<br>教授　楢林博太郎 | 生理学第二 |
| 11月20日（金） | 代謝性温度適応の神経内分泌性機序 | チェコスロバキア　チャールズ大学<br>教授　ラディスラフ・ヤンスキー | 生理学第一 |

昭和62年度

## 4月

1日　医学部附属動物実験施設長に東教授（細菌学講座）が発令された。
医学部附属実験実習機器センター長に小野教授（解剖学第一講座）が発令された。

10日　昭和62年度入学式（於　体育館）
〔新入生 120名（うち女子学生27名）〕

## 5月

11日
12日　新入生研修　第1回目（於　第2～4セミナー室、和室）

新入生研修（第1回目）

14日　医師国家試験合格者発表
（本学合格者 120名、合格率　94.5%）

## 6月

18日　第13回医大祭
21日　テーマ：Turning Point
（医大祭実行委員会 委員長　大坪　力）

第13回医大祭

30日　黒田一秀学長退官
学位記授与式（於　第二会議室）
（学位記被授与者　5名）

## 7月

黒田一秀学長退官記念講演会

1日　学長に下田晶久（病理学第一講座教授）が発令された。
黒田前学長に本学名誉教授の称号が授与された。
4日　黒田一秀学長退官記念講演会
演題　「医学校四十年」
演者　前旭川医科大学長　黒田一秀氏
11日～13日　第34回北海道地区大学体育大会
（当番校　北海道大学）
〔本学参加種目〕陸上競技（男女）、準硬式野球、軟式庭球（男女）、バスケットボール（男女）、バレーボール、サッカー、卓球（男女）、バドミントン、剣道（男女）、弓道（男女）
成績：男子　31大学中17位、女子　34大学中18位
21日～8月2日　第30回東日本医科学生総合体育大会夏季大会
（主管校　東海大学医学部）
〔本学参加種目〕陸上競技（男女）、準硬式野球、硬式庭球（男女）、軟式庭球（男女）、卓球（男女）、バレーボール（男）、バドミントン（男女）、サッカー、バスケットボール（男女）、柔道、剣道、弓道、空手、水泳（男女）、ゴルフ
成績：総合　35大学中4位。

## 8月

1日　教育研究及び厚生補導担当副学長に安孫子 保（薬理学講座教授）、医療担当副学長に鮫島夏樹（外科学第一講座教授）、附属図書館長に笹森秀雄（社会学教授）が発令された。
10日　昭和62年度納骨式（於　本学納骨堂）

## 9月

7日～10月2日　昭和62年度公開講座
「老年期の心の保健」

公開講座

9日　体育大会　（主催　学生）
〔学年対抗〕サッカー、バスケットボール、綱引き、リレー、駅伝
〔有志対抗〕バレーボール
16日　昭和62年度解剖体慰霊式並びに文部大臣感謝状伝達式　（於　体育館・第4セミナー室）
30日　学位記授与式（於　第二会議室）
（学位記被授与者　3名）

## 10月

13日～63年3月23日　第30回東日本医科学生総合体育大会冬季大会
（主管校　横浜市立大学医学部）
〔本学参加種目〕ラグビー、スキー
26日～30日　新入生研修　第2回目
（於　和室、職員研修施設）

## 11月

5日　本学記念日

## 12月

21日～22日　スキー教室　（於　北大雪スキー場）
講師4名、厚生補導委員会委員1名
参加学生　15名

スキー教室

25日　学位記授与式　（於　第二会議室）
（学位記被授与者　7名）

## 1月

20・21・26日　冬季体育大会　（主催　学生）
〔学年対抗〕バスケットボール、雪中サッカー
23日～24日　昭和63年度大学入学者選抜共通第1次学力試験
（本学会場 612名）

## 2月

29日～3月1日　昭和63年度旭川医科大学入学者選抜第2次試験
（受験者　578名）

## 3月

4日　昭和63年度旭川医科大学大学院入学者選抜試験

（受験者　9名）

5日　石井教授最終講義　（於　臨床第一講義室）

9日　石井教授・丸子教授歓送式
（於　臨床第三講義室）

12日　昭和63年度旭川医科大学大学院入学者選抜試験
合格者発表　（合格者　8名）

19日　昭和63年度旭川医科大学入学者選抜第2次試験
合格者発表　（合格者　151名）

25日　学位記授与式　（於　第二会義室）
（学位記被授与者　15名）
第10回卒業証書授与式　（於　体育館）
（卒業生 110名）

（庶務課・学生課）

## スキー教室

12月21日(月)・22日(火)の両日、北大雪スキー場（紋別郡白滝村）においてスキー教室が実施され、第1学年から第5学年まで男子13名、女子2名、計15名の学生が参加した。

今回は例年になく参加者が少なかったが、それだけに講師4名に学生15名と密度の濃い講習内容となった。

初日は、午後から講習、夜には懇親会を兼ねた夕食会が開かれ、2日目は午後2時にスキー場を発つまで講習が行われ、全員名残り惜しくもスキー場をあとにした。

（学生課）

## 学生証の査証及び更新について

学生証は、毎年度の査証と3年毎の更新が必要です。

63年度も4月1日(金)から次により行うので、忘れずに手続きを行うこと。

○昭和60年度及び昭和57年度入学者

更新が必要なので、学生課学生係で旧学生証と引き換えに、新学生証を受け取ること。

（まだ、新学生証用写真を提出していない学生は、至急提出すること。）

○上記以外の学生

査証が必要なので、学生課学生係に学生証を持参すること。

（学生課）

## 研究室紹介

### ■ 内科学第一講座 ■

藤兼俊明

本講座は、昭和48年9月の旭川医科大学の開学とともに、小野寺教授を中心に発足した。当初5名であった教室員は、昭和54年からの本学卒業生を中心とした参加により暫時増加し、現在80名を超えており、常勤者は30名、3名が在外研究中、2名が国内研修中である。

教育面では、第4学年から始まる内科学のうち、循環器、呼吸器、腎疾患の講義を担当し、あわせて附属病院での臨床実習に携わっている。

診療面では、昭和51年11月の附属病院の開院時より循環器、呼吸器および神経筋疾患を中心に内科諸領域にわたる診療を行っている。入院患者のおよその内訳は、虚血性心疾患、不整脈を中心とした循環器疾患が50%、肺癌、慢性閉塞性肺疾患を中心とした呼吸器疾患が30%、変性疾患、ジストロフィーなどの神経筋疾患が10%、その他が10%となっている。外来患者は、道北地方をはじめ各地からの紹介患者が多く、各領域の専門的診療を依頼されている。当科の特色として、直接生体についての検査、すなわち、超音波検査、各種血管造影法、心臓カテーテル法、呼吸機能、気管支鏡、神経筋生検などの特殊検査が多く、とくに最近は、PTCA（経皮的冠動脈形成術）、心筋生検さらに経気管支鏡的レーザー治療などの先端技術を応用した検査、治療が漸増している。

研究面では、循環器グループでは従来より冠血行動態、心筋虚血、心機能（とくに両室の相互干渉）、実験的肺塞栓、肺高血圧時の肺血行動態の研究を行ってきた。最近は、高血圧ラットを用い、摘出肺血管の薬剤反応性や摘出灌流心の心筋代謝、さらに心筋の蛋白電気泳動などの領域に拡がってきている。また、血管平滑筋の細胞培養にも着手し、血行動態から細胞レベルの代謝までの一貫した研究が展開されている。呼吸器グループでは、慢性閉塞性肺疾患患者の換気応答や運動耐応能、呼吸インピーダンス測定に関する臨床的研究が行われている。さらに、培養ヒト肺癌細胞を用いた実験的癌化学療法や薬剤耐性の克服、光線力学療法に関する研究がフローサイトメトリーを用いて行われている。神経筋領域では、ラット呼吸筋を用い、長期運動負荷に対する組織化学的研究が行われている。これらの成果は、国内外の学会、雑誌に発表されている。

一方、レクリエーションも盛んで、昭和62年には学内ソフトボール大会で準優勝、また、医局対抗野球大会では念願の初優勝をなしとげた。

現在、教室員の約半数が各地（主として名寄から札幌に到るベルト地域）の地域中核病院で中堅および研修医として診療に従事しているが、活躍の範囲が拡がりつつあり、今後さらに多忙を極めそうである。

（内科学第一講座　助手）

# 学生団体一覧

昭和63年3月現在

## 体育系

| 団体名 | 会員数 | 責任者 学年 | 責任者 氏名 | 顧問教官 |
|---|---|---|---|---|
| ラグビー部 | 38 | 4 | 福田　雅 | 小笠原正洋 |
| 準硬式野球部 | 30 | 4 | 角浜　孝行 | 長　和彦 |
| 卓球部 | 40 | 4 | 佐藤　洋一 | 松本　光博 |
| 陸上競技部 | 18 | 4 | 福家　信二 | 美甘　和哉 |
| スキー部 | 77 | 5 | 大久保又一 | 東　匡伸 |
| ゴルフ部 | 23 | 2 | 小川　俊彰 | 寺山　和幸 |
| ボディービルディング部 | 23 | 2 | 木村　圭介 | 徳中　荘平 |
| 硬式庭球部 | 42 | 4 | 木村　輝雄 | 米増　祐吉 |
| バドミントン部 | 17 | 4 | 小佐川直樹 | 山下　裕久 |
| 男子バスケットボール部 | 19 | 4 | 寺西　正 | 久保　良彦 |
| 空手道部 | 10 | 4 | 柏崎　裕一 | 猪俣　光孝 |
| 柔道部 | 12 | 3 | 佐藤　正夫 | 平山　隆三 |
| サッカー部 | 24 | 4 | 河村　勝義 | 水戸　廸郎 |
| バレーボール部 | 29 | 4 | 渥美　敏也 | 吉岡　一 |
| 剣道部 | 26 | 4 | 佐藤　雄也 | 森　茂美 |
| 山岳部 | 22 | 3 | 会沢　佳昭 | 八幡　剛浩 |
| 弓道部 | 23 | 4 | 奥山　光彦 | 黒島　晨汎 |
| ワンダーフォーゲル部 | 29 | 3 | 吉田　達之 | 笹森　秀雄 |
| アーチェリー部 | 10 | 4 | 松山　剛 | 丸子　基夫 |
| 大東流合気武道クラブ | 16 | 2 | 側　徳裕 | 中島　進 |
| 軟式庭球部"アップルズ" | 30 | 3 | 野村　智昭 | 宮岸　勉 |
| 硬式テニス同好会 | 23 | 4 | 合谷木　徹 | 安藤　御史 |
| 水泳部 | 40 | 3 | 大田原康成 | 竹光　義治 |
| 白い恋人（基礎スキー＆山岳スキー同好会） | 45 | 2 | 前本　篤男 | 丸子　基夫 |
| サイクリングクラブ「チャリンコの会」 | 17 | 5 | 鈴木　隆司 | 笹森　秀雄 |
| 操艇部 | 9 | 5 | 吉原　秀樹 | 吉田　逸朗 |
| 女子バスケットボール部 | 17 | 4 | 佐竹　典子 | 久保　良彦 |
| ソフトボール同好会 | 32 | 3 | 浅岡　克行 | 久津見晴彦 |
| マラソンクラブ | 10 | 5 | 大久保又一 | 大野　秀樹 |
| 女子バレー部 | 15 | 3 | 小森　麻美 | 谷本　光穂 |
| サロンフットボール同好会 | 32 | 1 | 小林　悟 | 丸子　基夫 |

## 文化系

| 団体名 | 会員数 | 責任者 学年 | 責任者 氏名 | 顧問教官 |
|---|---|---|---|---|
| 写真部 | 26 | 5 | 鈴木　隆司 | 谷本　光穂 |
| 英会話クラブ | 16 | 3 | 藤沢　和郎 | 平野日出征 |
| 医療研究会 | 33 | 6 | 松田　彰 | 中島　進 |
| 茶道部 | 18 | 4 | 府川　悦士 | 原田　一典 |
| 棧敷文の会 | 26 | 4 | 中野　悟 | 岡田　雅勝 |
| 映画研究会 | 18 | 6 | 今井　政人 | 建部　高明 |
| 将棋部 | 12 | 4 | 渡邊　真司 | 上口勇次郎 |
| JAZZ研究会 | 14 | 4 | 浅賀　浩孝 | 宮田　昌伸 |
| 囲碁同好会 | 10 | 3 | 花岡　淳一 | 岡田　雅勝 |
| ギター部 | 16 | 3 | 永坂　嘉章 | 原田　一典 |
| ロック研究会 | 30 | 3 | 後藤　学 | 井手　正吾 |
| 障害者問題研究会 | 10 | 6 | 土屋　芳治 | 笹森　秀雄 |
| 聖書研究会 | 8 | 4 | 大角　晃弘 | 谷井　広樹 |
| ブラス・アンサンブル | 26 | 3 | 諏訪　清隆 | 北　進一 |
| 室内合奏団 | 17 | 4 | 生出　邦仁 | 北　進一 |
| 科学論研究会 | 7 | 5 | 長谷川公範 | 中島　進 |
| 女子学生のひろば | 8 | 6 | 武井　理子 | 岩渕　次郎 |
| V.R.A.（ビデオ研究会） | 33 | 5 | 明　茂治 | 田中　達也 |
| フォーク研究会 | 5 | 5 | 鈴木　隆司 | 久津見晴彦 |
| アマチュア無線部 | 10 | 4 | 生出　邦仁 | 平野日出征 |
| 東洋思想研究会 | 12 | 3 | 佐藤　正夫 | 原田　一典 |
| 旅と鉄道研究会 | 10 | 6 | 吉田　克成 | 笹森　秀雄 |
| 天文同好会 | 12 | 5 | 矢萩　英一 | 相田　一郎 |
| 旅芸人CLUB | 10 | 2 | 関根　寿樹 | 加地　隆 |
| お祭り研究会 | 30 | 5 | 尾形　和泰 | 橋爪　裕子 |
| バード・ウォッチング・クラブ | 24 | 3 | 野村　徳之 | 丸子　基夫 |
| 合唱部 | 17 | 4 | 宮田　節也 | 高橋　達郎 |
| 児童心理研究会 | 14 | 2 | 原　英彦 | 井手　正吾 |
| 劇団しき | 12 | 2 | 平澤　克己 | 内田　倖喜 |

# サークル紹介

## 体育系

### ラグビー部

近頃、青年の心理には「熱い」ものより「冷たい」ものの方がウケが良いようです。この事実が良い事であるのか、悪い事であるのか、それは分らない。

正味1時間の試合の中にあるもの、それは、プレーする者、それを見つめる者の「バロック」的な人間の姿です。何かに熱く、胸を熱くした人の姿は豪壮華麗に見えるものです。

寒い旭川を熱いもので。言葉をもてあそんで簡単に言えますが、新入生の皆さん、「熱い」ものをラグビーで実感してみては如何。

（責任者　福田　雅）

| 経　費 | 活　動 |
|---|---|
| 会費<br>月額 2,000円 | 北海道ラグビーフットボール選手権大会（Eブロック優勝）、会長杯ラグビーフットボール競技会、東医体 |
| 遠征費自己負担 | 旭川・北海道・関東ラグビーフットボール協会加入 |

### 陸上競技部

――ゴールまで残り30メートル。もうミトコンドリアもフル回転だ。苦しい！負けるものか！最後だ、がんばるんだ！渾身の力をふりしぼる。声援も耳に入らなくなる。頭の中からすべてが消える。大好きなあの子のことも、今日の夕飯のことも……。胸にテープが触れる。ああ、ゴールしたのだ！もう走らなくていいのだ！勝ったのだ！腕が宙を叩く。歓喜の爆発。苦しみの消えぬ顔のまま、湧き上がる無上の幸福感に酔う。この瞬間、すべてが輝く――。青春は一度だ。若き日々は戻ってこない。極上の喜びを求めて君も陸上競技をやろう。

（責任者　福家信二）

| 経　費 | 活　動 |
|---|---|
| 会費<br>月額 1,000円 | 北海道インカレ、地区体（総合6位）、東医体（総合優勝）、全日本医歯薬獣医大会、北海道加盟団大会 |
| 遠征費自己負担 | 旭川陸上競技連盟、北海道陸上競技学生連盟、日本陸上競技連盟加入 |

### スキー部

氷点下20℃。レース前の緊張感。スタート！動いているのは俺とストップウォッチだけ。聞こえるのは風の音。ゴールの光電管を切る。もう走れない。雪の上に倒れ込む。そこに見えるのは、青い空、白い雲。

Racing Ski Team。部員数77名。アルペン、クロスカントリー、ジャンプより成る。滑る！走る！跳ぶ！夏の練習？ローラースキー、登山、水泳、自転車、ソフトボール、テニス、ウエイト…。みんなスポーツ好きさ。国体選手もいる。さあ、白銀の雪面に青春をぶつけてみないか！

（責任者　大久保又一）

| 経　　費 | 活　　動 |
|---|---|
| 会費<br>月額 1,000円<br><br>遠征費自己負担 | 東医体（優勝）、全日本インカレ（4部優勝）、全道インカレ（1部）、北海道スキー選手権大会<br>旭川スキー連盟、北海道学生スキー連盟、全日本学生スキー連盟加入 |

## ボディビルディング部

皆さんがボディビルと聞いて、まず連想するのは、異常に筋肉の発達した、妙なポーズをとる男の人かも知れません。しかし私達は、もっぱらパワーリフティングを通じて、各人が基礎体力の向上をめざしています。

筋力トレーニングは本来、個人で行うべき性格のものですが、ともすれば、効果的な練習法がわからず、目標を失ってしまいがちで、持続しない事が往々にしてあります。その欠点を補い、なおかつ楽しく、体力に応じた練習ができる事が、私達の部の強みです。昼休みに体育館２Ｆで活動しているので、気軽に足を運んで下さい。

（責任者　木村圭介）

| 経　　費 | 活　　動 |
|---|---|
| 会費<br>年額10,000円 | 第25回全道学生パワーリフティング大会（総合３位）、第26回全道学生パワーリフティング大会（総合３位）<br>北海道学生パワーリフティング連盟、全日本学生パワーリフティング連盟加入 |

## バドミントン部

我々羽球部は男子13名女子４名の計17名で、他に数名の看護学校生を加えて、夏期は週４回、冬期は週３回の練習をしています。練習内容はサーキットトレーニング、基礎打ち、試合などが中心で、厳しいという声と楽すぎるという声があがっています。ひたすら強くなりたい人、楽しくバドミントンをやりたい人など様々な人が集まっているクラブなので、本人のやる気しだいで厳しくも楽にもなる練習内容だと思います。

高校時代に羽球部に入っていた人、スポーツ大会などでバドミントンをやって面白いなと思った人、また全く経験はないけど一度やってみたいと思っていた人は、羽球部に入って一緒に気持ちのいい汗を流しましょう。

（責任者　小佐川直樹）

| 経　　費 | 活　　動 |
|---|---|
| 会費<br>月額 1,000円 | 地区体（男子）、東医体（男子2回戦、女子１回戦） |

## 男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は、現在部員19名、週３回の練習を行っています。練習の汗がもたらすそう快感は何事にもかえがたく、私達の学生生活をより充実したものにしています。ほとんどの部員が、大学入学後始めた初心者ですが、部員同士が工夫しながらプレーの向上を目指しています。練習以外にも冬期のスキー旅行など部員同士の親睦を深めています。

また、医師として立派に御活躍されている部長先生や先輩方との交流も活発です。

（文責　盧　　勇）

| 経　費 | 活　動 |
|---|---|
| 会費<br>月額 1,000円<br>遠征費自己負担 | 地区体、東医体（２回戦）、北医体（５位）、春季リーグ大会<br>旭川バスケットボール協会、北海道学生バスケットボール協会加入 |

## 柔　道　部

今、柔道部は燃えています。昨年は旭川四大学対抗戦四連覇、北医体優勝、東医体個人の部重量級優勝、女子の部優勝と五階級中二階級征覇し、ベスト８以上では４人と、黄金時代を築き上げようとしています。先人たちに追いつき追いこし、その夢をうけつぎ、はたすべく、私たちは日夜稽古に励んでいます。

しかし、現在部員は男子11名女子１名と人数は決して多くありませんが、その分部員同士の結びつきには目をみはるものがあります。活動はというと、時間はできるだけ短く、しかし内容のある練習をモットーに短期集中型で、少ない人数ながら柔の道を極めようと切磋琢磨しています。そしてあまった時間で勉学にとり組み、部活動と勉学の両立、つまり、あの「文武両道」という言葉にぴったりの活動をしています。さらに身体のみならず精神をも鍛えぬかれ、医師たる心構えも養えていけると思います。

さあ、老若男女・経験の有無を問わず、人生の貴重な一頁である大学生活を、私たちと共に有意義に過ごそうではないか。希望に満ちた新入生諸君に会えることを、部員一同心から楽しみに待っています。

（責任者　佐藤正夫）

| 経　費 | 活　動 |
|---|---|
| 会費<br>（無　料）<br>遠征費自己負担 | 春季旭川四大学対抗戦（優勝）、秋季旭川四大学対抗戦（優勝）、北医体（優勝）、東医体（個人重量級優勝、個人女子優勝）<br>旭川柔道連盟加入 |

## 剣　道　部

こんにちは。剣道部です。剣道というスポーツは、超有名なので、今さら説明することはないでしょう。早速、我が部の紹介をさせていただきます。まず、やる時はやります！練習に、試合に打ち込む部員の姿に、あなたは森田健作氏の背後霊を見ることでしょう。しかし、我が部の活動は、これだけでは語れません。剣道以外の活動も盛んです。それは、来てのお楽しみ。まずは、武道場へ足を運んでみて下さい。玄人・素人を問いません。特に女子のみなさん、一緒に団体戦に出ましょう。それでは、部員一同、お待ちしています。よろしく♡

（責任者　佐藤雄也）

| 経　費 | 活　動 |
|---|---|
| 会費<br>月額 1,000円<br>遠征費自己負担 | 道地区医学部対抗剣道大会（優勝）、道医歯薬学生剣道大会（２位）、北医体（２位）、地区体（２位）、新人戦<br>旭川剣道連盟、北海道学生剣道連盟、全日本学生剣道連盟加入 |

## 山　岳　部

我が山岳部は、一年を通じて、四季折々楽しめる山行を行っています。夏は、沢登り、岩登り。冬は、山スキーを行い、北海道の山々の自然を満喫しています。

実際の活動として、長期休暇を利用して春・夏・冬合宿を行うほか、週末を利用してハイキング、ゲレンデスキー、温泉、釣りなどを行っている。北海道の山は、本州では味わうことのできない「原始の匂い」「荒々しい未開の自然」が魅力であり、厳しい自然条件にあるだ

けに、四季折々変化する自然がより新鮮に美しく思えるものです。初心者の人でも大歓迎します。

（責任者　会沢佳昭）

| 経　　費 | 活　　動 |
|---|---|
| 会費<br>年額 3,000円<br><br>遠征（山行）費<br>自己負担 | 春山合宿（日高・ペテガリ）、ゴールデンウィーク合宿（十勝連峰）、夏山合宿（暑寒別岳・知床）、冬山合宿（大雪山・トムラウシ山） |

## 軟式庭球部“アップルズ”

軟式テニスというと一見マイナーで、ややもすると、軟弱なスポーツと思われがちですが、決してそのようなことはありません。炎天下のもと、小麦色の四肢が白球を追い、飛び散る汗に身を委ねるその姿には、さわやかな感動を覚えることでしょう。また、ラケットさえ握れば誰にでもこなせるスポーツであるため、やってみると意外にこのスポーツのとりこになる人も多いのです。

昨年は、新入部員の多くが未経験者でしたが、今では、めりはりのある素晴しいゲームを見せてくれます。我々と共に汗を流したい君を部員一同待ち望んでいます。

（文責　佐藤一也）

| 経　　費 | 活　　動 |
|---|---|
| 会費<br>月額 1,000円<br>（4月～8月）<br><br>遠征費自己負担 | 加盟団体戦、北医体、四医体（2位）、東医体<br><br>旭川軟式庭球連盟加入 |

## 水　泳　部

我々水泳部は、東医体を目指し競泳に励む人はもちろん、初めて水泳をする人まであらゆるレベルの人の入部を歓迎します。活動は、競泳部門と『青い恋人』という自分の好きなときに好きなだけ泳ぐことができる部門と大きく2つに分かれています。部員は自分の目的、体力にあった活動をすることができます。また、競泳といってもほとんどが大学に入って始めた人ばかりなので少しでも興味のある人はどんどん挑戦してみてください。

スポーツの中で最もバランスよく体を鍛えることのできる水泳を私たちと一緒に楽しみましょう。

（文責　雨宮　聡）

| 経　　費 | 活　　動 |
|---|---|
| 会費<br>年額 3,000円 | 東医体 |

## サイクリングクラブ「チャリンコの会」

我がサイクリングクラブ「チャリンコの会」は、1年中チャリンコに乗ってる元気者の集まりです。

夏休みともなると、日本列島を縦断する人や北海道を一周する奴、ちょっとサロマ湖へ、と行く連中や、チャリで内地の実家へ帰る人など、みんな勝手にチャリンコでうろつきまわってます。このようにツーリング主体のクラブでありますが、去年はロードレースにも初挑戦し2人がツール・ド・北海道に個人参加しました。今年はぜひとも旭医チームを作り参加したいと思っています。

北の大地の上をチャリンコで一緒に走りましょう。

（文責　片野　俊英）

| 経　　費 | 活　　動 |
|---|---|
| 会費<br>（無料）<br><br>遠征費自己負担 | ツール・ド・北海道洞爺湖一周ロードレース（2名参加、8位、50位） |

## 女子バスケットボール部

女子バスケット部は、このごろの成績不振を打開するため、キャプテンは大はりきりで部の改善に努めています。練習内容をみても、ボールによる練習はもちろん、筋トレ（バーベルなんかも使います）、なわとびなど、どんどん新しいものをとり入れています。そのせいか最近、筋肉隆々の自分の足をふと複雑な面持ちでながめる部員が増えたような気がします。とにかくがんばって今年こそはメダルを!!というのが今年の女子バスケット部の抱負です。

（責任者　佐竹典子）

| 経　　費 | 活　　動 |
|---|---|
| 会費<br>（必要な都度）<br>遠征費自己負担 | 北医体、東医体（8位）、春・秋インカレ<br>旭川バスケットボール協会、北海道学生バスケットボール協会加入 |

## マラソンクラブ

雪が溶けて、ふきのとうが顔を出す。山々も新緑。そんなある日、外の景色をながめながら走る。行き交うランナーに手をあげる。北海道の大草原を走る。農家のあぜ道を走る。そんな時、農家のおばさんが、畑のスイカをくれる。最高！

マラソンクラブは苦しみながら走るクラブではない。健康のため、シェイプアップのため、気分転換のため…理由はともあれ、走るのが好きなヤツの集まり。さあ、自然と接しよう！市民ランナーの仲間になろう！いい汗しようぜ！

（責任者　大久保又一）

| 経　　費 | 活　　動 |
|---|---|
| 会費<br>年額 1,000円 | 留萌一増毛マラソン（ハーフ）、千歳・日航国際マラソン、富士登山競争、旭川健康マラソン（ハーフ）、豊頃町サーモンマラソン |

# 文化系

## 英会話クラブ

ここ数年の海外旅行ブームは円高の影響もあってか、すさまじいものがある。運良く大金を手にしてふらりと出かけた旅先で、喉の乾きを感じた君は cafe に入った。メニューを眺めた君は、俺はオレンジジュースが飲みたいと思い〝I am orange juice〟と言ってしまった…。

英語は堅苦しい言語じゃなくて、〝コミュニケーションの手段〟として通じればいい。メンバーには、いつか訪れる異国の地を夢見る者や、映画好きで字幕なしで理解したいと考えてる者などもいます。目的はともあれ英語でコミュニケーションできるようになりたいと考えてる人達の集まりです。私達は nice guy のマーク先生と雑談感覚で英語で遊んでいます。活動は英語をきっかけにただ飲んでるだけだと言われていますが、それでも身につくものなのです。興味のある人は一度来てみて下さい。新入生でなくてもかまいません。

（責任者　藤沢和郎）

## 将　棋　部

わが将棋部は、生物の上口先生を顧問にいただき、6年生3名、4年生2名、3年生2名、2年生1名、1年生4名の12名で活動しています。昨年の主な活動内容は、学祭での恒例行事となった学内将棋トーナメント大会の主催と、春に札幌で行われた全道学生将棋大会への参加です。学祭での将棋大会は、将棋部員が参加する名人戦と一般の学生が参加する一般戦とに分れて腕を競いあいます。特に学祭当日の決勝戦は、将棋部員が駒となり、玄関前の芝生の上につくられた一辺10メートルの将棋盤の上を走りまわって刻一刻と変わる戦局の模様を中継して大いに盛り上がりました（これを『人間将棋』といいます）。また普段は、昼休みに第6セミナー室に部員が集まり、雑談を混じえながら楽しく、時に厳しく対局して実力をつけています。一方、部室は一般にも開放しており、将棋好きの仲間が暇を見つけてやって来ては頭を突きあわせて楽しんでいる様です。中には、老後の楽しみにするので教えて欲しいといってくる気のはやい人も来ていますので、将棋を楽しみたい方は気軽に戸をたたいて下さい。

（責任者　渡邊真司）

| 経　費 | 活　動 |
|---|---|
| 会費<br>（無料）<br>遠征費自己負担 | 全道学生将棋大会（5位）<br>全道学生将棋連盟加入 |

## ロック研究会

我がロック研は、現在30名ほど在籍し、医大祭や自主コンサート、ライブ等で活動しています。普段は、バンド単位での練習が主ですが、その他にも合宿を行うなど多彩な活動をしています。全員が音楽大好き人間で、音楽の好きな方なら、経験者はもちろん、初めて楽器に触れる方でも、楽しく活動できると思います。

音楽好きな貴方（女）の参加をお待ちしています。

（責任者　後藤　学）

| 経　費 | 活　動 |
|---|---|
| 会費<br>月額 1,000円 | コンチェルバイ・コンサートほか<br>自主コンサート・ライブ　数回 |

## 聖書研究会

何不自由のない時代なのに、大事なものが欠けているような気がします。何でもある時代なのに、無いものがあるのです。気がついておられるでしょうか。

例えば、進んで行く方向がわかりません。心を向け、思いを傾けて行く方向が無いのです。だから、夢を持てません。希望が持てません。夢も希望もない人生に生甲斐はありません。言い換えれば、生きる意味も目的もつかめないのです。たいへんなことです。

それだけではありません。真の喜びが、心の平安が、強い意志そして力が無いのです。なぜでしょうか。

聖書は言います、「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です」と。

真理が明らかにされて、はじめて人生の意味・目的、喜び、平安そして力を見出し、持つことができます。そして、その真理に光をあて、照し出すもの、それが『聖書』であると言っているのです。

私たちのサークルは、この聖書やそれに関わる本を読み学び会をしています。ぜひ一度、来てみて下さい。

（責任者　大角晃弘）

## ブラス・アンサンブル

新入生の皆さん入学おめでとう。ここで私達ブラス・アンサンブル部の紹介をさせて頂きます。この部は部員数が20余名を数え、木管から金管まで多彩な楽器をそろえていて、旭川四大学 Joint concert や大学祭、医大音楽の夕べなど年に数回のコンサートを開催してます。部員はみんな音楽好きな者ばかりで楽器を吹くことを楽しんでいます。経験の有無にかかわらず大学で楽器を演ってみたいと思ってるあなた、とりあえずは私達の部をのぞいてみて下さい。

（責任者　諏訪清隆）

| 経　費 | 活　動 |
|---|---|
| 会費<br>月額 1,000円<br>（6ヵ月間） | 旭川市四大学ジョイント・コンサート、医大祭、医大音楽の夕べ。 |

## 旅芸人CLUB

ファウスト曰く、「実にきれいな娘だ。あんな娘は見たこともない。慎ましやかで、おしとやかで、しかもどこかにこうおきゃんなところもある。」

私たちは、こんな娘を求めています。旅芸人倶楽部に入って大学生活を思いっきりエンジョイしましょう！

さて、こういう私たちは、気が向いたときにビデオを撮ったり、学祭の仮装大会に出たりします。つまり、さまざまなエンターティンメントを提供する、一つのクリエイティブ集団といえるでしょう。さあ、新入生のみんな、楽しい世界が待ってるよ！

（責任者　関根寿樹）

| 経　費 | 活　動 |
|---|---|
| 会費<br>（必要な都度） | 医大祭、自主VTR上映会 |

## 学生教育研究災害傷害保険について

本学は、学生の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために「学生教育研究災害傷害保険」の賛助会員大学となり、加入受付事務などを行っています。

昭和62年度の事故発生件数は14件で、事故の態様は課外活動中12件、正課中２件となっています。

本保険は、学生の互助共済を基本として運営されており、学生生活中の万一の場合に備えできるだけ全員加入するようにしてください。

加入手続は学生課厚生係で行っています。受付期間は、４月１日～４月30日及び10月１日～10月31日で、保険料は次のとおりです。

| 学　　年 | 保険期間 | 保険料 |
|---|---|---|
| 第１学年 | ６年間 | ４，０５０円 |
| 第２学年 | ５年間 | ３，５００円 |
| 第３学年 | ４年間 | ２，９００円 |
| 第４学年 | ３年間 | ２，２５０円 |
| 第５学年 | ２年間 | １，５５０円 |
| 第６学年 | １年間 | ８５０円 |

（学生課）

## 怨外

宮本　健司

寄生虫学の分野において近年発展途上国へ諸種のスポンサーのもとに医療協力に出かける例を多く見受ける。

1976年西アフリカ（ナイジェリア）の医学部へ出張以来、久し振りに日本を外から眺める機会を持った。

2度給油したジェット機は15時間の旅で40年前の日本へ逆戻りした感覚を与えるパキスタン・イスラム共和国へ運んでくれる。インドの西側に国境を接し北緯23度からスタートする南北に長い国土、テレビのニュースはウルド語、シンド語、アラビア語および英語と４回放送されるアラブ系の多民族国家である。街の店頭に日本製品が溢れ、路上は日本製車やイタリア製スクーター改造の“リキシャ”が疾風を飛ばしにぎやかに走っている。かつて日本のタクシーも神風運転と云われたが、この国もそれと同等のスピード狂が多く、スリル満点で手に汗を握る。

'86年８月はインダス川流域に洪水、'87年11月は正月以来1度も雨が無く旱魃のニュースが印象深い。中国に国境を接する北部は世界第2の高峰“$K_2$”の存在する冷涼地帯であるが、シンド州南部を調査の拠点とした。我々はパキスタンのシンド大学と協同して寄生虫全般の基礎資料を造る目的で人間とその生活圏内に生息する動物を対象に調査を実施した。この地域の夏季は思考も止る程の酷暑と乾燥のため蚊は発生できず、冬季の近づく11月頃から蚊の吸血活動は盛んになり、マラリア患者発生予防のため居住地区へ“DDT 油剤”（日本は1971年以降製造・販売禁止）を市衛生当局が散布していた。

熱帯圏は秋と云っても日中の気温は30℃以上に上昇する。しかし屋内は冷房機の普及で涼しく、その温度差のため風邪を引く場合が多いので“薬”の携帯は必須である。

パキスタンの人々は一般にトイレットペーパーを使う習慣はなく、大学や国際空港にも備えられていない。ホテルでは厳重に注意していたが一度失敗して切れていた。大声でボーイを呼ぶ事もできず決意して生れて初めてパキスタン方式に従った。不慣れのため悪戦苦闘したが、考えてみると紙が無いと一日の開始ができない文明人はなんと不便な人種であろう。

日本人の眼から見ると単族昆虫は多く、また、生活習慣の相違により環境衛生は良いとは云えない。私も河川生水を飲み、ランブル鞭毛虫を土産に持ち帰ってしまったが、調査終了の結果、特定の寄生虫を除き、予想に反して感染状況は低かった。この理由は高温と乾燥の自然環境のため土壌中の感染源は死滅すると考えられる。

国民の97％が回教徒のパキスタンは朝５時コーランの朗読が拡声器から流れ１日の始まりとなる。就寝まで５回の礼拝の義務、ホテルは室内にメッカの方向を示す矢印を掲示して旅行者の便宜をはかっている。また酒と豚肉の摂取は法律で禁止され、私は２度共出国するまで１滴の酒類・1g の豚肉も見る機会は無かった。パーティーや会食時は水かジュース類と、慣れるまで味気はない。試薬のエチルやメチルアルコールも政府の許可書を必要と厳重に管理され購入できなかった。

発展途上国は上水道の設備が貧しくて、非衛生的な水を日常使用している人々が多い。この問題が改善され、衛生的な飲用水が供給されると、寄生虫を含む感染症は減少することが明らかである。

この様な途上国に滞在していると万事スローモーな行動の住民や、仕事や生活の面で無い無いずくしの場面が多く、不便を感じる。しかし、アフリカやパキスタンの人々は、車・電気・トイレットペーパーなどが無くても立派に毎日を過しており、大変便利な日本と比べ、はたしてどちらが幸福なのかと考えさせられた。“インシャーラ”

（寄生虫学講座　助教授）